

平成21年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 国立美術館は、利用者のニーズ、研究成果を踏まえ、各館において魅力ある質の高い所蔵作品展、企画展及び上映会を実施する。所蔵作品展については、各館の所蔵作品の特色を生かした展示を行うとともに、あわせて作家の特集展示やテーマ性の高い小企画展を開催する。企画展については、日本のみならず海外の美術館と協力しながら、近現代作家の個展、メディアアート等新しい芸術表現を視野に入れた企画展を開催する。

また、前年度に引き続き、各館の企画・連携の在り方を検討し、各館における展覧会企画等の連絡調整を行うとともに、平成22年9月に5館の共同により開催する展覧会の作品選定等具体的な準備に着手する。

映画については、保存・復元の成果を最大に活用しつつ、作家や時代、国やジャンル等さまざまな切り口による上映会を実施して、多様な鑑賞機会の提供を図る。また、前年度に引き続き、映画産業の枠外で製作された日本映画の上映を行う。

なお、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるよう努める。

(東京国立近代美術館)

本館・工芸館 目標入館者数計：64万4千人

<本館>

所蔵作品展では、近代日本美術の流れを通史的に展観するという同館の役割を踏まえつつ、鑑賞者が関心をもちやすいようめりはりのある展示を行う。また、所蔵作品研究の成果に基づき、須田国太郎、坂本繁二郎といった作家の特集展示や、「人体」「庭」「水浴図」などのテーマに基づく小企画を実施する。

企画展は、時代（戦前・戦後）、地域（国内・海外）、ジャンル（絵画・彫刻・写真等）のバランスを考慮しつつ編成する。具体的には、60年代から今日に至るビデオアート等の流れを、「ビデオを待ちながら」展と斯界を代表するウィリアム・ケントリッジの個展（京都国立近代美術館との共同企画）により紹介するとともに、代表作《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか》を含むゴーギャン展、日本の現代美術の重要作家である河口龍夫の個展、近代日本画家小野竹喬の個展、近代韓国の代表的彫刻家権鎮圭の個展を開催する。

目標入館者数計：55万人9千人

ア 所蔵作品展 目標入館者数計：20万3千人

「近代日本の美術」展 4回展示替え

あわせて6回程度の小・中規模の特集展示の実施

- イ 企画展 目標入館者数計：35万6千人
- (ア)「ビデオを待ちながらー映像、60年代から今日へ」
期間：平成21年3月31日(火)～6月7日(日)
(60日間(うち平成21年度59日間))
目標入館者数：2万2千人(うち平成21年度2万1千人)
- (イ)「ゴーギャン展」
期間：平成21年7月3日(金)～9月23日(水・祝)(74日間)
共催：NHK、NHKプロモーション
目標入館者数：28万人
- (ウ)「河口龍夫展」
期間：平成21年10月14日(水)～12月13日(日)(53日間)
目標入館者数：1万人
- (エ)「権鎮圭展」
期間：平成21年10月10日(土)～12月6日(日)(50日間)
共催：武蔵野美術大学
会場：本館ギャラリー4
目標入館者数：9千人
- (オ)「ウィリアム・ケントリッジ展」
期間：平成22年1月2日(土)～2月14日(日)(38日間)
共催：京都国立近代美術館
目標入館者数：1万4千人
- (カ)「生誕120年 小野竹喬展」
期間：平成22年3月2日(火)～4月11日(日)
(37日間(うち平成21年度27日間))
共催：毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション
目標入館者数：3万人(うち平成21年度2万2千人)

<工芸館>

所蔵作品展では、年間を通して企画性のある特集展示を行う。具体的には、春に恒例の花を主題とした「近代工芸の名品一花」や、近年の収集で充実してきた「欧米の近代工芸とデザイン」、夏休み企画としての「こども工芸館」等の展覧会を開催する。

なお、夏季の「こども工芸館」では、小・中学校教職員を対象とする研修の実施や工芸館作成のセルフガイドを利用した鑑賞授業のための指導案等を配布するほか、教育現場からの意見も取り入れて、各成長段階にあった鑑賞補助教材を作成し、児童・生徒による工芸鑑賞の一層の推進に努める。

企画展では、現代工芸の装飾をめぐる新たな動向を検証し将来の展望を図る特別展や、平成20年度に収蔵した「染野夫妻陶芸コレクション」を山口県立萩美術館・浦上記念館と協力して特集し、戦後の伝統的な陶芸作品を紹介する。また、本館ギャラリー4を会場に、戦後のグラフィック・デザイン界を牽引してきた早川良雄の回顧展を開催する。

目標入館者数計：8万5千人

ア 所蔵作品展 目標入館者数計：5万2千人
「近代工芸の名品」 4回展示替え

イ 企画展 目標入館者数計：3万3千人

(ア)「染野夫妻陶芸コレクションーリーチ・濱田・豊藏・壽雪ー」

期間：平成21年9月4日(金)～11月3日(火・祝)(52日間)

共催：朝日新聞社

目標入館者数：1万2千人

(イ)「現代工芸への視点ー装飾の力」

期間：平成21年11月14日(土)～平成22年1月31日(日)(64日間)

目標入館者数：1万2千人

(ウ)「早川良雄展」

期間：平成22年1月2日(土)～2月14日(日)(38日間)

会場：本館ギャラリー4

目標入館者数：9千人

<フィルムセンター>

上映会では、収集と研究の成果に基づいて映画人や製作国、ジャンルなどのテーマ別に企画を実施する。所蔵作品を活用した上映会とともに、在日大使館等との連携により外国作品を紹介する上映会を開催する。また、フィルムセンターが近年発掘・復元した珍しい映画を広く公開する「発掘された映画たち」を開催するほか、若者によるいわゆる「自主映画」の祭典であり、映画作家の登竜門としての性格を持つ映画祭でもある「第31回びあフィルムフェスティバル」を開催する。あわせてこども映画館等のイベントを通して、貴重な映画体験、視聴覚体験の機会を提供する。

展覧会では、スチル写真やポスターの所蔵コレクションを活用しつつ、文学という切り口を導入した「映画の中の日本文学 Part 2」や、フランス古典映画のオリジナル・ポスターによる「フランス映画ポスターの世界」を開催する。また、上映企画と関連させて「ドキュメンタリー作家 土本典昭」「生誕百年 映画女優 田中絹代」を開催する。

上映会・展覧会 目標入館者数計：13万3千人

ア 上映会 目標入館者数計：12万1千5百人
(大ホール)

(ア)「映画の中の日本文学 Part 2」

期間：平成21年4月3日(金)～4月19日(日)(15日間)

目標入館者数：3千5百人

(イ)「発掘された映画たち2009」

期間：平成21年4月21日(火)～5月3日(日・祝)(12日間)

目標入館者数：3千5百人

- (ウ)「日本映画史横断④怪獣・SF映画特集 Part 2」
期間：平成21年5月5日（火・祝）～5月28日（木）（21日間）
目標入館者数：6千人
- (エ)「EUフィルムデーズ2009」
期間：平成21年5月29日（金）～6月20日（土）（20日間）
共催：欧州連合（EU）駐日欧州委員会代表部、EU加盟国大使館・文化機関
目標入館者数：5千人
- (オ)「特集・逝ける映画人を偲んで2007－2008」
期間：平成21年6月30日（火）～7月16日（木）
平成21年8月1日（土）～9月13日（日）（53日間）
目標入館者数：1万8千人
- (カ)「第31回ぴあフィルムフェスティバル」
期間：平成21年7月17日（金）～7月31日（金）（13日間）
共催：PFF パートナーズ
目標入館者数：5千人
- (キ)「生誕百年 映画監督 山中貞雄」
期間：平成21年9月15日（火）～9月27日（日）（12日間）
目標入館者数：3千5百人
- (ク)「生誕百年 映画女優 田中絹代」
期間：平成21年10月6日（火）～12月27日（日）（71日間）
目標入館者数：2万6千5百人
- (ケ)「映画監督 大島渚」
期間：平成22年1月5日（火）～1月31日（日）（24日間）
目標入館者数：1万1千人
- (コ)「映画監督 吉田喜重」
期間：平成22年2月2日（火）～2月28日（日）（24日間）
目標入館者数：1万1千人
- (サ)「映画監督 篠田正浩」
期間：平成22年3月2日（火）～3月31日（水）（26日間）
目標入館者数：1万2千人
- (小ホール)
- (シ)「日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 日本・ドナウ交流年2009
ブルガリア映画特集」
期間：平成21年4月29日（水・祝）～5月8日（金）（9日間）
共催：ブルガリア共和国大使館
目標入館者数：1千5百人
- (ス)「日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの
軌跡 vol. 2 」
期間：平成21年6月30日（火）～7月24日（金）（22日間）
共催：ぴあ株式会社
目標入館者数：2千5百人
- (セ)「ドキュメンタリー作家 土本典昭」

期間：平成21年8月11日（火）～8月30日（日）（18日間）

目標入館者数：3千5百人

(ソ)「映画の教室2009」

期間：平成21年9月11日（金）～9月27日（日）（9日間）

※金、土、日のみ上映

目標入館者数：2千人

(タ)「アンコール特集：2008年度上映作品より」

期間：平成21年10月30日（金）～11月15日（日）（9日間）

※金、土、日のみ上映

目標入館者数：2千5百人

(チ)「川喜多賞受賞監督作品選集 川喜多かしこ生誕100年記念海外巡回プログラム特別上映会」

期間：平成22年1月14日（木）～1月31日（日）（16日間）

共催：財団法人川喜多記念映画文化財団、独立行政法人国際交流基金（予定）

目標入館者数：3千人

(ツ)「NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③」

期間：平成22年2月26日（金）～3月14日（日）（9日間）

※金、土、日のみ上映

目標入館者数：1千5百人

イ 展覧会 目標入館者数計：1万1千5百人

(ア)「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2」(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成21年4月3日（金）～6月18日（木）（66日間）

目標入館者数：2千5百人

(イ)「ドキュメンタリー作家 土本典昭」(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成21年6月30日（火）～8月30日（日）（54日間）

目標入館者数：1千5百人

(ウ)「生誕百年 映画女優 田中絹代」(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成21年9月4日（金）～9月27日（日）

平成21年10月6日（火）～12月20日（日）（87日間）

目標入館者数：4千人

(エ)「フランス映画ポスターの世界 フィルムセンター所蔵新外映コレクションより」(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成22年1月7日（木）～3月28日（日）（70日間）

目標入館者数：3千5百人

(京都国立近代美術館)

所蔵作品展では、京都を中心とする近代美術の回顧、展望を試みるとともに、企画展と連動したテーマ性の高い小企画をさらに充実させ、関西を中心とした近代美術の調査・研究の成果を積極的に展示する。また、現代美術については収蔵作品を基にした企画展示場及び常設展示場をともに使用する全館展示の企画展を開催し、過去20年間の

収集と研究の成果を公開する。

企画展では、「ラグジュアリー」展でファッションと美術の重なり合う領域の研究を、「野島康三展」で同館所蔵の野島康三の写真作品の日本と海外における位置付けの最新の研究成果を、「ウィリアム・ケントリッジ展」では世界のメディアアートをリードするケントリッジの作品研究を公開・展示する。

目標入館者数計：48万1千人

ア 所蔵作品展 目標入館者数計：19万4千人

コレクション展「近代の美術・工芸・写真」（311日間）7回展示替え
企画展と関連した小企画及びコレクション展単独での特集企画 5回程度

イ 企画展 目標入館者数計：28万7千人

(ア)「ラグジュアリー:ファッションの欲望」

期間：平成21年4月11日（土）～5月24日（日）（39日間）

共催：京都服飾文化財団

目標入館者数：4万人

(イ)「京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの京都」

期間：平成21年6月9日（火）～7月20日（月・祝）（37日間）

共催：京都新聞社

目標入館者数：2万5千人

(ウ)「無声時代ソビエト映画ポスター展」

期間：平成21年7月3日（金）～8月23日（日）（45日間）

共催：東京国立近代美術館フィルムセンター

目標入館者数：1万3千人

(エ)「生誕120年野島康三展」

期間：平成21年7月28日（火）～8月23日（日）（24日間）

目標入館者数：1万2千人

(オ)「ウィリアム・ケントリッジ展」

期間：平成21年9月4日（金）～10月18日（日）（40日間）

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万4千人

(カ)「ボルゲーゼ美術館展」

期間：平成21年10月31日（土）～12月27日（日）（52日間）

共催：NHK

目標入館者数：17万人

(キ)「コレクション展」

期間：平成22年1月19日（火）～3月7日（日）（36日間）

目標入館者数：9千人（美術館施設改修工事の都合で変更の可能性有り）

(ク)「モホリ・ナジ展」

期間：平成22年3月20日（土）～5月9日（日）

（45日間（うち平成21年度10日間））

目標入館者数：1万8千人（うち平成21年度4千人、美術館施設改修工事の都合で変更の可能性有り）

（国立西洋美術館）

平成21年度は国立西洋美術館の開館50周年を迎えることもあり、所蔵作品展では、本館の設計者ル・コルビュジエに関する「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を開催する。この展示にあわせて「Fun with Collection'09」を開催し、コルビュジエの建築理念や美術館建築が分かりやすいプログラムを実施する。

企画展では、まとめて展示することのできなかった同館所蔵の名作版画を「所蔵版画展（仮称）」で展示するとともに、版画名作のカタログを制作する。また「古代ローマ帝国の遺産－栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ－」では、古代美術と発掘を展示、これにあわせて「ローマ、未来の原風景（仮称）」と題した写真展を新館で同時開催する。

「フランク・ブラングィン」展では、同館のコレクションの基礎となる松方幸次郎の作品収集のアドバイザーを務めた画家の画業を日本で初めて本格的に紹介する。これは50周年の最後を飾る企画である。

目標入館者数計：75万5千人

ア 所蔵作品展 目標入館者数計：25万人（288日間）

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」

「近・現代絵画と彫刻」

Fun with Collection'09

「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」に関連して、同館の建築をテーマとするプログラムを2009年6月から8月にかけて行う。内容としては、講演会（4回程度）、ワークショップ（2回）、建築ツアー（4回）を予定している。

イ 企画展 目標入館者数計：50万5千人

（ア）「ルーヴル美術館展 17世紀ヨーロッパ絵画」

期間：平成21年2月28日（土）～6月14日（日）

（93日間（うち平成21年度66日間））

共催：日本テレビ放送網、読売新聞東京本社

目標入館者数：42万人（うち平成21年度36万人）

（イ）「所蔵版画展（仮称）」

期間：平成21年7月7日（火）～8月16日（日）（37日間）

目標入館者数：2万5千人

（ウ）「古代ローマ帝国の遺産－栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ－」

期間：平成21年9月19日（土）～12月13日（日）（75日間）

共催：東京新聞

目標入館者数：10万人

（エ）「フランク・ブラングィン展」

期間：平成22年2月23日（火）～5月30日（日）

（85日間（うち平成21年度32日間））

共催：読売新聞東京本社

目標入館者数：7万人（うち平成21年度2万人）

（国立国際美術館）

所蔵作品展では、現代美術の動向を発信するため、特に新収蔵作品を有効的に活用した展示を行う。

企画展では、国際的に知られる写真家、杉本博司が収集した古美術作品等と自身の写真の組み合わせによる異色の展覧会を開催するとともに、ルーヴル美術館展では、古代から19世紀前半までの幅広いジャンルから子どもを主題にした表現を集約して紹介する。また、若手の美術作家やなぎみわの近作個展及びイタリア在住の彫刻家長澤英俊の個展を開催するほか、現代日本絵画のこの10年余りをとらえる大規模な絵画展を開催し、幅広い客層の関心に応じる。

目標入館者数計：50万8千人

ア 所蔵作品展 目標入館者数計：1万人

「コレクション」（56日間）展示替え無し

イ 企画展 目標入館者数計：49万8千人

（ア）「杉本博司 歴史の歴史」

期間：平成21年4月14日（火）～6月7日（日）（49日間）

共催：朝日新聞社、朝日放送

目標入館者数：1万7千人

（イ）「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」

期間：平成21年6月23日（火）～9月23日（水・祝）（81日間）

共催：朝日新聞社

目標入館者数：15万人

（ウ）「やなぎみわ 婆々娘々！」

期間：平成21年6月20日（土）～9月23日（水・祝）（83日間）

共催：朝日新聞社

目標入館者数：15万1千人

（エ）「慶應義塾創立150周年記念 関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」

期間：平成21年6月20日（土）～9月23日（水・祝）（83日間）

共催：産経新聞社、慶應義塾

目標入館者数：15万1千人

（オ）「長澤英俊展 ーオーロラの向かう所ー」

期間：平成21年10月10日（土）～12月13日（日）

目標入館者数：1万人

（カ）「国立国際美術館新築移転5周年記念 現代日本の絵画」

期間：平成22年1月16日（土）～4月4日（日）

（68日間（うち平成21年度64日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：2万人（うち平成21年度1万9千人）

（国立新美術館）

自主企画展では、1960年代より独特の世界観・宇宙観に基づき、写真・立体・インスタレーション等さまざまな分野にまたがって活躍を続ける日本人作家・野村仁を取り上げた個展、光をテーマに絵画・写真という二つの異なった分野で活躍している二人の女性作家、松本陽子と野口里佳を取り上げた二人展、日本と世界の新しい現代美術の現況について若手作家の先鋭な活動を毎年定期的にグループ展で紹介する「アーティスト・ファイル」（2009、2010）を開催し、日本を中心とする現代の多様な美術動向を紹介する。

共催展では、広く近現代美術及び西洋美術を対象とし、新たな視点による展覧会を実現する。

本年度は、現代工芸・デザインのパイオニア、ルネ・ラリックや印象派の巨匠ルノワールの技法と芸術に迫る回顧展を開催する。さらに、ルーヴル美術館の所蔵品から子どもをテーマに古代から19世紀までの多様な芸術作品を一堂に集めた展覧会、ウィーン美術史美術館とブダペスト美術館のコレクションを通じてハプスブルク家収集のヨーロッパ絵画、彫刻、工芸を紹介する展覧会を開催するなど、特に海外の多様な美術作品を紹介する。

目標入館者数計：84万人

（ア）「アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち」

期間：平成21年3月4日（水）～5月6日（水・祝）

（56日間（うち平成21年度32日間））

目標入館者数：2万7千人（うち平成21年度1万5千人）

（イ）「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」

期間：平成21年3月25日（水）～6月1日（月）

（60日間（うち平成21年度54日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：20万人（うち平成21年度18万人）

（ウ）「野村仁 変化する相—時・場・身体」

期間：平成21年5月27日（水）～7月27日（月）（54日間）

目標入館者数：2万人

（エ）「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ」

期間：平成21年6月24日（水）～9月7日（月）（66日間）

共催：東京新聞

目標入館者数：10万人

（オ）「光 松本陽子／野口里佳」

期間：平成21年8月19日（水）～10月19日（月）（54日間）

目標入館者数：2万人

（カ）「THE ハプスブルク」

期間：平成21年9月25日（金）～12月14日（月）（70日間）

共催：読売新聞社

目標入館者数：25万人

(キ)「DOMANI・明日展 2009」

期間：平成21年12月12日(土)～平成22年1月24日(日)(26日間)

共催：文化庁

目標入館者数：1万3千人

(ク)「ルノワール展」(仮称)

期間：平成22年1月20日(水)～4月5日(月)

(66日間(うち平成21年度61日間))

共催：読売新聞社

目標入館者数：22万人(うち平成21年度20万人)

(ケ)「平成21年度(第13回)文化庁メディア芸術祭」

期間：平成22年2月3日(水)～2月14日(日)(11日間)

共催：文化庁

目標入館者数：3万人

(コ)「アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち」

期間：平成22年3月3日(水)～5月5日(水・祝)

(56日間(うち平成21年度25日間))

目標入館者数：2万7千人(うち平成21年度1万2千人)

国立美術館 目標入館者数計：336万1千人

所蔵作品展(展示)：72万5百人

企画展(企画上映)：264万5百人

①-2 国立美術館における企画機能の強化については、これまでの検討を踏まえ、①各館相互における交換展・共同企画展の充実や、②所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、③平成23年度以降における新たな5館共同企画展の開催に向けた準備等を実施することとする。また、さらなる企画機能強化のため、各館研究員の協働や人材の活用等について検討する。

①-3 国立美術館全体の所蔵作品を最大限に生かした5館共同の展覧会については、時期を平成22年9月とすること、テーマを「影」とすることを決定したが、本年度は、開催に向けた具体的な作品選定や展示計画の策定に入る。

② 地方における鑑賞機会の充実を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、「国立美術館巡回展」等を実施するとともに、全国の公立文化施設等を会場にして優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「近代日本画・洋画の名作(仮称)」(担当館：京都国立近代美術館)

国立美術館が所蔵する近代日本画・洋画作品から、京都ゆかりの日本画、洋画の代表作をあわせて展示し、我が国近代の美意識を探る。あわせて広く一般を対象と

する「講演会・シンポジウム」を実施する。

(ア) 期間：平成21年9月12日（土）～10月12日（月・祝）

会場：香川県立ミュージアム

(イ) 期間：平成21年10月24日（土）～12月6日（日）

会場：徳島県立近代美術館

イ 各館の巡回展

巡回展「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」

東京国立近代美術館工芸館の所蔵作品の中から近代工芸の名品を展示し、昭和初期から現代に至る変遷や今日の動向を紹介する。

期間：平成21年7月～8月（予定）

会場：飛騨高山美術館（岐阜県）

ウ 優秀映画鑑賞推進事業

国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：88作品22プログラム（1プログラム4作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画など、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作などで構成する。同時に、地域の特色を持った構成を工夫する。

期間：平成21年7月13日（月）～平成22年3月14日（日）

会場：全国150会場以上

エ 巡回上映

(ア) 「川喜多かしこ生誕100年記念」日本映画海外巡回特集上映

期間：平成21年5月（予定）

会場：香港電影資料館（中国）

共催：財団法人川喜多記念映画文化財団、独立行政法人国際交流基金

(イ) 「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業

期間：平成21年4月～平成22年3月（予定）

会場：全国5会場

共催：コミュニティシネマ支援センター

(ウ) 「アニメの源へー日本のアニメーション映画(1924～1952)」

日本のアニメーション映画特集を、ロカルノ（スイス）等で上映する。

③ 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 国立新美術館は、美術団体等が行う展覧会（公募展）に対して、会場を提供する業務

を行う。

ア 平成21年度及び平成22年度に施設を使用する美術団体

(ア) 平成21年度に施設を使用する美術団体等に会場を提供する。

(イ) 美術団体等が作品搬入や審査等を行う作品整理室及び審査室等について、効率的な使用が可能となるよう利用調整を図る。

(ウ) 使用についての手引き(資料や備品一覧)の検証を行い、効率的かつ円滑な実施を図る。

(エ) 施設及び備品等の維持管理及び保全に関する体制の充実を図る。

(オ) 美術団体等が行う展覧会の入館者数等の報告管理について、より連携を図る。

(カ) 美術団体等と連携して行う教育普及事業の充実を図る。

イ 平成23年度以降の準備

(ア) 平成23年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

(イ) 平成24年度に施設を使用する美術団体等の募集の検討を行う。

ウ 公募団体等関係者で構成する「バックヤード等公募展関係等検討のためのワーキンググループ」を開催し、バックヤード等の使用や展覧会開催に当たっての改善点等意見の収集を引き続き実施する。

② メディアアートなど、国際的にも注目される新しい芸術表現を取り上げる展覧会等について、以下のとおり実施する。

ア 東京国立近代美術館では、1960年代から今日に至るビデオアートの流れを新たな切り口からとりあげる「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」展を開催するとともに、映像作品の収蔵を図る。

イ フィルムセンターでは、「アニメの源へ—日本のアニメーション映画(1924～1952)」(10番組、53作品)を、ロカルノ(スイス)等で上映する。

ウ 京都国立近代美術館及び東京国立近代美術館では、国際的に活躍する南アフリカの映像作家ウィリアム・ケントリッジのアニメーションを主体とするビデオインスタレーションによる大規模な個展「ウィリアム・ケントリッジ展」を開催する。

エ 国立西洋美術館は、開館50周年を記念して、ル・コルビュジエ設計による本館を顕彰する所蔵作品展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を開催する(2009年6月4日～8月30日)。社団法人日本建築学会とともに国立西洋美術館本館の保存活用計画策定に関する調査を引き続き実施する。

オ 国立国際美術館は、展示場にてライブ・パフォーマンス「小杉武久 二つのコンサート」を実施する。

カ 国立新美術館は、「アーティスト・ファイル」(2009、2010)及び「野村仁展」においてビデオアート等の作品を紹介するとともに、「文化庁メディア芸術祭」においてメディアアートなどを紹介する。

また、館内モニターを活用し、メディアアートの上映を推進する。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

① 国立美術館は、所蔵作品、展覧会活動、その他の活動状況をホームページ等を活用し積極的に広く社会に紹介し、国立美術館についての理解を得るよう努める。

また、所蔵作品情報については、前年度に実施した国内彫刻家の著作権者の調査等に

に基づき、許諾を得たものについて独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、本年度は国内版画家の著作権者の調査を実施する。

これらにあわせて、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、東京国立近代美術館・国立新美術館図書検索システム、国立新美術館アートコモンズなどの連携情報システム(国立美術館版「想-IMAGINE」)の開発を進め、本版として公開する。

国立美術館の情報資源と国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)及び国立情報学研究所による WebcatPlus、文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、国立情報学研究所の「想-IMAGINE」において連携するための調査研究を継続して実施する。

ア 国立西洋美術館においては、開館50周年を記念して「国立西洋美術館50年史」を発行する。

また、西洋美術振興財団との連携による所蔵作品名作選の英語版の発行及び民間出版社との連携による「国立西洋美術館ガイドブック」、「国立西洋美術館展覧会50年の記録」を発行する。

なお、世界遺産登録に向け、引き続き地域住民との連携を図るため台東区住民等を対象とした国立西洋美術館本館見学会を実施する。

イ 国立新美術館では、インターネットによる展覧会情報システム「アートコモンズ」の利便性向上とともに、引き続き国内美術展カタログの海外への寄贈事業の充実に努める。

② 法人本部のホームページについて内容の充実に努め、国立美術館の活動について周知広報を強化する。

また、各館の日本語版・英語版ホームページの内容の充実に努め、展覧会情報や調査研究成果の公表等、積極的な情報発信に努める。

(東京国立近代美術館)

ア 研究紀要14号(平成21年度刊行予定)の全文を、平成22年3月を目途にホームページで公開する。

イ 英語版ホームページの展覧会情報、イベント情報の拡充に努める。

(京都国立近代美術館)

ア 京都国立近代美術館は研究誌「CROSS SECTIONS」第2号を刊行し、日頃の研究成果、館独自の活動を公表する。

イ 展覧会図録を寄贈している京都府立図書館、大阪府立中央図書館、滋賀県立図書館、兵庫県立図書館、奈良県立図書情報館では、前年度に引き続き各図書館のホームページに、寄贈した図録を蔵書リストとして掲載・更新する。

(国立西洋美術館)

ア 日本語版・英語版ホームページの展覧会情報、イベント情報など各種情報の充実に努める。

イ 50周年記念サイトを通じて50周年記念に関する広報を積極的に行う。

ウ 日本語版・英語版収蔵作品データベースの学術情報・展示情報の充実に努める。

(国立国際美術館)

ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報を掲載する。

イ 情報コーナーのパソコンによる所蔵作品閲覧の充実を図る。

ウ 現状より見やすく、検索しやすいホームページ構成についてデザイン改訂も視野に入れた調査研究を実施し、美術館活動等の情報発信の強化に努める。

(国立新美術館)

ア ホームページのリニューアルを行い、より魅力ある情報発信に努める。

イ 引き続き、英語版ホームページに加え、多言語による情報提供の充実を図るとともに、国立新美術館ニュースなどをホームページへ掲載し、研究成果を発信する。

③ 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

ア 東京国立近代美術館は、近現代美術関連資料を本館アトライブラリー、近現代工芸関連資料を工芸館図書閲覧室、映画関連の図書資料をフィルムセンター図書室において収集し、公開する活動を継続的に進める。また、図書検索システムと既に導入している外部書誌データベース並びに電子ジャーナルアーカイブ等との連携機能強化のため、リンクリゾルバの活用について検討する。

イ 国立西洋美術館は、近年導入した最新電子ツールの紹介などを通じてレファレンス・ガイドの充実に取り組む。また、レファレンス・ツールの利用者増に備えて閲覧室のサービス環境を充実させる。

ウ 国立国際美術館は、情報コーナーにおける国内外の美術図書の充実に取り組むとともにパソコンによる所蔵作品閲覧の充実を図る。

エ 国立新美術館は、貴重図書等の特別閲覧サービスの充実及び普及に努める。

④ 所蔵作品データのデジタル化及び公開を推進する。特に国内彫刻家に続き、国内版画家などの著作権許諾手続きを進め、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムの掲載画像の増加に努める。あわせて、同システムにおいて、作家及び作品に関する解説文の閲覧が可能となるようコンテンツの充実を図る。また、引き続きネットワークの一元管理を実施した上で、各館の所蔵作品管理システムの統合について検討を進める。

(4) 国民の美的感性の育成

① 引き続き、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や学校で活用できる教材「アートカード」の貸し出しなどの事業を行い美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

② 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

所蔵作品展、企画展とともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生への鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置づけ、学校と連携しつつ実施し、調査・研

究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するアーティスト・トーク（5回）、キュレーター・トーク（15回）、解説ボランティアによる所蔵品ガイドやハイライトツアー（300回程度）の実施

ウ 企画展に関する教員のためのレクチャー付き内見会（1回）、小・中学生のためのセルフガイドの会場配布と学校への送付

エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、教員研修の実施、鑑賞教材の貸出（アートカード）

オ 夏季の「こども美術館」において、子どもの創作活動に関連付けた鑑賞プログラムの充実と、その実践例の教員への提示

カ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会）との連携による研修の実施

<工芸館>

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム「タッチ&トーク」を実施するほか、以下の教育プログラムを実施する。

ア 各種教育機関からの要請に応じて、児童・生徒に対するギャラリートークやタッチ&トークの実施

イ 夏季の「こども工芸館」において、小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、指導案の配布と会期中の鑑賞教室の実施

ウ 児童・生徒を対象とした工芸作品の鑑賞補助教材の作成・配布

エ 作家指導による児童・生徒を対象とした陶芸の技法体験を通じた、鑑賞教育のモデルケースの開発

オ 研究員のほか、外部研究者や作家によるギャラリートーク（14回）及び講演会等（1回）の実施

<フィルムセンター>

ア 上映会・展覧会におけるギャラリートーク等の実施

イ 映画の多様性に触れる機会をつくることを目指し、研究員の解説や弁士の公演なども交えた小・中学生を対象とした「こども映画館」の実施（夏休み期間、4日間程度）

ウ 学生層を対象にした「カルト・ブランシュ 期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画（仮）」の実施（エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社との共同主催、秋頃、6日間程度）

エ 相模原市内の小・中学生を対象とした上映会の実施（相模原市教育委員会との連携事業、2～3回程度）

（京都国立近代美術館）

美術鑑賞教育への関心を高めることを重点目標に置き、外部からの自発的要望を積極的に支援し、現場指導者の質の向上及び指導者の数的拡大を目指す。

ア 学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会等の受入れの促進

イ 教員やNPO団体の美術館利用プログラムに対する支援

ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施

エ 出張授業の受け入れ、特別授業等の支援など高校・大学の授業との積極的な連携

オ 企画展に関連した講演会（8回程度）の実施

カ 東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催による映画上映を、京都ドイツ文化

センターを会場に定期的に（年5回）実施

(国立西洋美術館)

児童・生徒を対象としたプログラムをはじめ、多くの人々に美術と美術館に親しんでもらうためのプログラム、コレクションを活用したテーマ性のある企画、対象を限定したプログラムなど、それぞれの効果を考慮した幅広いレベルと内容のプログラムを提供する。

ア Fun Day'09開催時に、美術館と作品を楽しむ自由参加型プログラムの実施（4回程度）

イ 企画展に関連した「先生のための観賞プログラム」の実施（小・中・高等学校の教員対象）（2回）

ウ ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」の実施（18回）

エ 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施（予約制）

オ クリスマス・プログラムの実施

カ 障害者を対象とする特別プログラムの実施（1回）

キ 企画展に関連した講演会（8回程度）、スライドトーク（12回程度）及び音楽プログラム（1回）の実施

ク 6月以降の毎週日曜日にボランティアによる「建築ツアー」として本館の建物見学会の実施

(国立国際美術館)

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じられるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートークなどを開催する。また、低年齢層も同様に美術鑑賞の機会を享受できるように、子ども向けの各種プログラムを実施する。その他、美術館がより開かれた場所となるよう、各種イベントを開催する。

ア 鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（1回）

イ 鑑賞実践プログラムに関連した「こどもびじゅつあー」の実施（6回）

ウ 鑑賞支援制作プログラムに関連した「こどものためのワークショップ」の実施（4回）

エ 大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ

オ 小・中・高等学校の団体鑑賞の受入れ

カ 鑑賞教育に関する教員研修の実施（予約制）

キ 企画展に関連した講演会（5～6回）、ギャラリートーク（4～6回）及びアーティストトーク（3～4回）、コンサートなどイベントの実施

(国立新美術館)

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やギャラリートークを実施するほか、より多くの人々が美術に触れ、美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

ア 展覧会にあわせた講演会及びギャラリートーク等の実施（14回）

イ 作家等によるワークショップ及び講演会の実施（4回）

ウ 子どもを対象としたワークショップの実施（2回）

エ 中学生以上を対象とした鑑賞ガイドの配付（2回）

オ 公募団体等との連携によるワークショップ及びギャラリートークの実施

カ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

③ ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 本館ガイドスタッフ（ボランティア）約40名により、所蔵作品展の所蔵作品ガイド（開館時毎日）及び「ハイライト・ツアー」（10回程度）を実施する。

イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生グループの受入れなど、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る(年2回)。

<工芸館>

ア 工芸館ガイドスタッフ（ボランティア）約25名により、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」（会期中の水・土曜日）及び夏季の児童向けの鑑賞プログラム「こどもタッチ&トーク」を実施する。

イ 工芸館ガイドスタッフにより、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室を実施する。

ウ 工芸館ガイドスタッフに対し、研究員によるフォローアップ研修や作家によるレクチャーを開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る。

(京都国立近代美術館)

ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の中からボランティアを受入れ、当館での来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

イ 友の会の活動において、京都市立芸術大学との連携による定期演奏会、見学会及びワークショップ等の事業を実施する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティアスタッフによる、ファミリープログラム、小・中・高等学校生の団体を対象とした常設展（所蔵作品展）でのスクール・ギャラリートーク、週末の一般向けギャラリートーク及び建築ツアーを実施する。ファミリープログラムの「どうぶじゅつ」（18回程度）については企画から参加してもらうことでボランティアの育成にもつながるようにする。その他に、クリスマス・プログラムを行う。

イ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する（年2回程度）。

ウ 都立上野高校の「奉仕」課外授業に協力し、高校生ボランティアを活用する。

(国立国際美術館)

ア 学生ボランティアを受け入れ、展覧会、講演会及びワークショップ等のプログラムに参加させる等、活動の充実を図る。また、美術資料の整理を通じ、美術館活動の基本を学べるようにする。

イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図るとともに、法人会員の加入に努める。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

- イ 教育普及事業や情報収集提供事業等への企業協賛制度の継続を図る。
- ウ 近隣関係施設と連携・協力し、マップの配布等を実施する。

- ④ フィルムセンターでは、京都国立近代美術館との共催による映画上映を、京都ドイツ文化センターを会場に定期的に（年5回）実施する。
- ⑤ フィルムセンターでは、国内外の映画祭にコレクションを出品するとともに、研究員が出席して作品の紹介や日本映画の普及等に努める。

(5) 国立美術館における展示、教育普及その他の美術館活動の推進を図るため、調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動に反映させる。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、研究紀要を発行するなど、調査研究成果を発信するよう努める。

また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

- ① 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
 - ア ヴィデオアートに関する調査研究
 - イ ポール・ゴーギャンに関する調査研究（名古屋ボストン美術館との共同研究）
 - ウ 河口龍夫に関する調査研究
 - エ 権鎮圭と韓国の近代彫刻に関する調査研究（武蔵野美術大学、韓国国立現代美術館との共同研究）
 - オ 小野竹喬に関する調査研究（笠岡市竹喬美術館、大阪市立美術館との共同研究）
- ② 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
 - ア 鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や、学校の授業と美術館での鑑賞の連続性に関する調査研究（東京都図画工作研究会等との共同研究）
 - イ 国立美術館版「想－IMAGINE」の開発を進め、本版として公開する。
 - ウ 国立美術館の情報資源と国立情報学研究所による WebcatPlus、文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想－IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開について調査研究を実施する。
 - エ 「1960～70年代のビデオ・アート：作品の所在調査とデータ・ベース構築」（科学研究費補助金）2年目

<工芸館>

- ① 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
 - ア 現代工芸における装飾的傾向に関する調査研究
 - イ 現代の茶陶に関する調査研究（山口県立萩美術館・浦上記念館との共同研究）
 - ウ イギリスの陶芸家ルーシー・リーに関する調査研究（国立新美術館、益子陶芸美術館、大阪市立東洋陶磁美術館との共同研究）
 - エ 近代におけるデザインの成立と展開についての調査研究（大阪市立近代美術館建設準備室との共同研究）
 - オ 日本における先駆的なグラフィックデザイナー杉浦非水の調査研究

- ② 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 工芸作品の鑑賞方法や美術館教育の在り方の調査研究（多摩美術大学、東京家政大学との共同研究）
 - イ 陶芸制作体験によって児童・生徒が、より質の高い作品理解を得るための鑑賞教育の在り方に関する調査研究（岡山県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館との共同研究）
- ＜フィルムセンター＞
- ① 収集・保存のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査
 - イ 文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき、新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査
 - ウ 映画フィルムの登録・長期保管・保存、アナログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調査研究（F I A F 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等との共同研究）
- ② 上映会、展覧会及び教育普及事業のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 昭和戦前期の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究
 - イ 日本のジャンル映画（怪獣映画、S F 映画等）に関する調査研究
 - ウ 映画産業の枠外で製作された日本映画・インディペンデント映画等の歴史に関する調査研究
 - エ 山中貞雄監督に関する調査研究
 - オ 映画女優・田中絹代に関する調査研究
 - カ 大島渚監督に関する調査研究
 - キ 吉田喜重監督に関する調査研究
 - ク 篠田正浩監督に関する調査研究
 - ケ ブルガリア映画に関する調査研究
 - コ 土本典昭監督に関する調査研究
 - サ 戦前期のハリウッド映画に関する調査研究
 - シ フランス映画とフランス映画ポスター、またそれらの日本への紹介に関する調査研究
- （京都国立近代美術館）
- ① 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア ファッションと美術との重複領域についての調査研究（京都服飾文化研究財団との共同研究）
 - イ 近代京都の変遷を、美術・工芸・建築を含む都市文化論としての新たな視点で調査・研究
 - ウ 写真家・野島康三の日本近代美術史における位置付け、及び同時代の世界の写真動向の中での位置についての調査研究（渋谷区立松濤美術館、イタリア・モデナ市写真美術館との共同研究）
 - エ ドローイングとアニメーション、映画とメディアアートの物語の生成についてのプロセスに関する調査研究（東京国立近代美術館、広島市現代美術館との共同研究）
 - オ 京都国立近代美術館所蔵の現代美術作品についての包括的研究

カ イタリア・ルネサンスと近代についての調査研究（ローマ市ボルゲーゼ美術館との共同研究）

② 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 「京都学展」にあわせ、京都市内に残る近代建築等の施設調査を、一般の参加者を募りフィールドワーク実習として実施する。館所蔵の写真作品を基に、大学の授業と連動した専門的な「プリント・スタディ」の授業を同館において実施する（大阪芸術大学及び京都造形芸術大学との共同研究）。

（国立西洋美術館）

① 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 連作版画を中心とした、所蔵版画作品に関する調査研究

イ ローマ古代美術とポンペイ遺跡に関する調査研究（ナポリ＝ポンペイ考古学監督局との共同研究）

ウ ル・コルビュジエの建築に関する調査研究（ル・コルビュジエ財団（パリ）と東京理科大学との共同研究）

エ フランク・ブラングィンに関する調査研究

② 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

イ 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究

ウ 所蔵版画作品に関する調査研究

エ フランク・ブラングィンと国立西洋美術館のコレクションに関する調査研究

オ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究

カ 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究（ポール・ゲティ財団との共同研究）

キ 美術館教育に関する調査研究

ク 「火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括」（科学研究費補助金）6年目

ケ 「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」（科学研究費補助金）6年目

コ 「初期アッティカ黒像式陶器の技法と図像に関する研究」（科学研究費補助金）3年目

サ 「レンブラント及びレンブラント派における和紙による版画素描作品の研究」（科学研究費補助金）2年目

（国立国際美術館）

① 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 杉本博司に関する調査研究（金沢21世紀美術館と共同研究）

イ 「やなぎみわ」作品に関する調査研究（東京都写真美術館との共同研究）

ウ ルーヴル美術館作品に関する調査研究（ルーヴル美術館、国立新美術館との共同研究）

エ 慶應義塾に関連する作品に関する調査研究（慶應義塾大学との共同研究）

オ 長澤英俊に関する調査研究（埼玉県立近代美術館、川崎市立美術館、神奈川県立近代美術館、長崎県美術館との共同研究）

カ 現代日本絵画に関する調査研究

キ 現代のコンセプチュアル・アートに関する調査研究

ク メディアアートに関する調査研究

ケ ルノワールの技法と芸術に関する調査研究（国立新美術館、ポーラ美術館との共同研究）

② 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 美術館教育に関する研究

イ アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究（アジア次世代キュレーター会議での共同研究）

ウ 展示における所蔵作品の活用方法についての調査研究

（国立新美術館）

① 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 日本の現代美術の動向に関する調査研究

イ ルーヴル美術館所蔵作品のうち「子ども」をテーマとした作品に関する調査研究（ルーヴル美術館、国立国際美術館との共同研究）

ウ ルネ・ラリックとヨーロッパ近代装飾美術並びに工芸に関する調査研究

エ ハプスブルク家収集の近世ヨーロッパ美術工芸に関する調査研究（ウィーン美術史美術館、ブダペスト美術館、京都国立博物館との共同研究）

オ ルノワールの技法と芸術に関する調査研究（国立国際美術館及びポーラ美術館との共同研究）

カ 野村仁の作品に関する調査研究

キ 松本陽子の作品に関する調査研究

ク 野口里佳の作品に関する調査研究

② 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）に関する調査研究

イ 日本の近現代美術資料に関する調査研究

ウ 戦後の公立美術館における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究

エ 美術情報の収集・提供システムに関する調査研究

オ 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究

（6）快適な観覧環境等の提供

① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するため、展示や解説パネル等の工夫を行う。

また、より良い鑑賞環境を提供するため、ホームページでの混雑情報の提供、日時指定チケットや入場整理券の導入等さまざまな方途について検討する。

なお、引き続きアンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

（東京国立近代美術館）

<本館>

ア 展覧会カレンダーを配布する。

イ 所蔵作品展において「フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、中国語、韓国語）」を配布する。

ウ 企画展において可能な限り「フロアガイド」を配布する。

エ 企画展（年1回）、夏季の所蔵作品展において、小・中学生向けのセルフガイドを配布する。

オ アンケート調査、予備調査に基づき、会場構成案・動線案を検討する。

カ 所蔵する重要文化財 11 点（うち 1 点は寄託作品）についての作品情報の提供をパネル、ホームページなどで引き続き重点的に行う。

<工芸館>

ア フロアガイド、作家名・作品名の読み方、素材・技法等を記載した出品リストを作成・配布するとともに、作家や作品の解説パネルやキャプションを作成・掲示するなど鑑賞のための情報提供を促進する。

イ 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した鑑賞シート（館内設置式のシート）の充実を図り、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。

ウ 夏季の「こども工芸館」において、こども向けワークシートに加え、親子で鑑賞できるようおとな向けの鑑賞補助資料を配布する。

エ 屋外展示作品についての情報を館内に掲示し、来館者への関心を高める。

<フィルムセンター>

ア 展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。

「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2」（1回）

「ドキュメンタリー作家 土本典昭」（1回）

「生誕百年 映画女優 田中絹代」（1回）

「フランス映画ポスターの世界 フィルムセンター所蔵新外映コレクションより」（1回）

計 4 回配布

(京都国立近代美術館)

ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 展覧会カレンダーを配布する。

ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。

エ 英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」（発行：(財)大阪 21 世紀協会）に展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施する。

(国立西洋美術館)

ア 国立西洋美術館ブリーフガイドを配布する。

イ 常設展（所蔵作品展）「作品リスト（日本語、英語）」、企画展「作品リスト（日本語、英語）」及び小・中学生向け解説「ジュニアパスポート」を配布する。

ウ 国立西洋美術館本館の建築探検マップ（日本語、英語、仏語、中国語、韓国語）を配布する。

(国立国際美術館)

ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 展覧会において可能な限り「フロアガイド」を配布する。

ウ 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を配布する。

エ 英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」（発行：(財)大阪 21 世紀協会）に展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施する。

オ 各階に無料の給水機を設置する。

カ 彫刻などの所蔵作品を鑑賞しながら休めるように、地下 1 階の無料スペースに、動線の妨げにならない程度に椅子を設置する。

(国立新美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。
 - イ 展覧会カレンダーを配布する。
 - ウ 展覧会において「フロアガイド」を作成・配付する。
 - エ 展覧会において中学生以上を対象とした鑑賞ガイドを作成・配付する。
- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。
- ア 高校生以下及び18歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める。
 - イ 展覧会の混雑状況を考慮し、開館日・時間等について柔軟な対応を行う。
 - ウ 学生等の美術鑑賞への興味と関心を高めるため、キャンパスメンバーズ制度の普及広報に努める。
 - エ 東京国立近代美術館本館・工芸館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展の割引観覧を実施する。
 - オ 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
 - カ 国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2009」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
 - キ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展観覧料の優待を実施する。
- (東京国立近代美術館)
- ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展を廉価で観覧できるパスポート観覧券の広報に努める。
- <本館・工芸館>
- ア 年始は1月2日（土）から開館する。
 - イ 「ゴーギャン展」開催中の休館日のうち8月17日（月）、24日（月）を開館するとともに、全会期中、金曜日に加え土曜日の夜間開館を実施する。
- <フィルムセンター>
- ア 所蔵作品上映「生誕百年 映画女優 田中絹代」及び「映画監督 大島渚」「映画監督 吉田喜重」「映画監督 篠田正浩」において、1日3回上映を実施する。
 - イ 前年度の調査検討を踏まえ、学生層を対象とした会員制度の実施に向け準備を進める。
- (京都国立近代美術館)
- ア 休館日のうち、5月5日（火・祝）、9月22日（火・祝）を開館する。
 - イ 大文字・五山送り火の日である8月16日（日）に夜間開館を実施する。
- (国立西洋美術館)
- ア クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。
 - イ 休館日のうち、5月5日（火・祝）、8月10日（月）・9月22日（火・祝）を開館する。
 - ウ 年始は1月2日（土）から開館する。
 - エ 春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間について、閉館時間を午後5時30分まで延長する。

オ 美術館無料開放日「Fun Day」を開催し、より多くの人々にコレクションと美術館をアピールするとともに、所蔵作品展を無料とする。

カ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。

キ 12月を中心にクリスマスイベント「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を開催する。

(国立国際美術館)

ア 企画展開催中の金曜日の閉館時間を午後7時まで延長する。

イ 休館日のうち、5月5日(火・祝)、9月22日(火・祝)を開館する。

ウ 毎月第1土曜日を地下2階で開催するコレクション展、企画展の無料観覧日とする。

エ 「大阪周遊パス2009」、大阪市交通局「共通一日乗車券」に参加し、観覧料の低廉化を図る。

オ 近隣のホテルと提携し、宿泊客に対し優待券を配布し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

カ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社などと提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

ア 近隣の美術館と「六本木アート・トライアングル」を構成し、相互割引制度の実施に努める。

イ 施設を使用する美術団体等と連携し、可能な限り企画展との観覧料割引制度の実施に努める。

ウ 可能な限り同時期に開催される企画展の同時割引の実施に努める。

エ 共催展開催に際して、共催者と高校生無料招待日の設定について協議し、了解を得たものから逐次実施する。

オ クレジットカード及び電子マネー(Suica及びPASMO)による観覧券の窓口販売を行う。

カ 来館者数に応じ柔軟な券売対応に努める。

キ 小学生以下の子どもを対象とした託児サービスを通年で実施する。

③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

ア 東京国立近代美術館では、レストランの季節のメニューなど最新の情報を、ホームページを通じて広報するとともに、前年度の連携・協力(企画展半券持参者に対するコーヒー・紅茶の提供)の試行結果を踏まえ、より一層の連携・協力を図る。

イ 国立国際美術館では、レストランとの連携・協力として展覧会にちなんだメニュー作りの実施や季節メニューなど最新の情報をホームページを通じて広報する。

ウ 国立新美術館では、ミュージアムショップ内に設けたギャラリーの企画協力を行う。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1)-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向

に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

近代日本美術の体系的コレクションの充実を図る。特に次の点に留意する。

- ① 1940年代以前の日本画の収集
- ② 1960年代から今日までのビデオアート等を含む映像作品の収集 (パブリック・スペースへの設置作品を含む)
- ③ 1970年代以降の日本人作家の作品の収集

<工芸館>

近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。特に次の点に留意する。

- ① 日本工芸の近代化を示す作品の補完
- ② 戦後から現代にいたる伝統工芸やクラフト、造形的な表現の重要作品の収集
- ③ 近代ヨーロッパの工芸及びデザイン作品の収集
- ④ 橋本真之の鍛金大作《果樹園一果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実》(1978-1988)の収集

<フィルムセンター>

戦前の日本映画を中心に散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム、日本劇映画のうちでビネガーシンドロームや褪色のおそれが高い1950年代後半から60年代の映画フィルム、同じく日本劇映画のうちで比較的収集率の低い90年代以降の映画フィルム、デジタル技術により復元された映画フィルム及び複製物、上映会や国際交流事業に必要な映画フィルム、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルム、文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」によって、新たに残存が確認された映画フィルムの収集に努める。

なお、本年度は次の点について留意する。

- ① 企業等の管理下に置かれていないため、散逸・劣化の可能性が著しい非商業映画、映画産業の枠外で製作された日本映画等のより一層の収集
- ② 戦後の日本アニメーション映画を代表する作品の収集
- ③ 海外との合作により製作された日本映画の優先的な収集

(京都国立近代美術館)

- ① 我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸について、近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期において重要な位置を占める記念的作品、近代美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集にも努める。あわせて各ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させるほか、ビデオインスタレーションなどのメディアアートの作品を引き続き収集する。

また、現代版画において、池田満寿夫と並ぶ同時代の重要な版画家である吉原英雄と井田照一のまとまった数の版画作品の受け入れを図る。さらに、故・川西英が所蔵した創作版画作品・資料の収集を継続し、創作版画の集中的アーカイブの構築を目指す。

- ② 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。また、村上華岳、富田溪仙などの収集を継続し、京都画壇作品の充実を図る。

(国立西洋美術館)

- ① 15世紀～20世紀初頭のヨーロッパ絵画の収集に努める。
- ② ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。
- ③ 旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主として、次のとおり収集する。

- ① 1945年以降の日本の現代美術の系統的収集（日本の戦後美術を跡づける主要作）。
 - ② 国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集（オセアニアなど欧米圏以外の現代美術の収集）。
- また、映像・メディアアート担当客員研究員による収集候補作品のリストアップを行う。

(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

(1)-3 各館の陳列品購入費を一部留保し、高額作品の購入、緊急な購入等に対応する。
なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2)-1 保存施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

- ① 国立美術館が所蔵する美術作品、映画フィルム、図書資料等の増大に対応するため、相模原留保地の活用について相模原市等関係機関との検討・協議を行うなど、収蔵施設・設備等の拡充について検討する。
- ② フィルムセンターでは、前年度に引き続き、民間倉庫会社や映画製作会社等と情報交換を行うとともに、国外の同種機関における保存施設を視察することにより、収蔵施設の拡充と設備内容に関する調査を進める。

(2)-2 引き続き、東京国立近代美術館本館において、老朽化した空調用設備の更新及び改修工事を行い、保存・管理環境の整備を図る。

(3) 所蔵作品の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

- ① 東京国立近代美術館本館では、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を引き続き進める。特に洋画全点点検、版画保管状況改善を進め、また、作品移動時の梱包・輸送に関して専門的アドバイスをあおぐ体制を整えるなど、連携を拡大する。
- ② 東京国立近代美術館工芸館では、引き続き、緊急度の高い染織作品と漆芸作品等の現状保存修復を行う。人形作品の現状を調査し保存修復の方法を検討する。
- ③ フィルムセンターでは、現存する日本最古の映画作品『紅葉狩』について、前年度の比較テストを踏まえ、全篇復元を行う。
- ④ 京都国立近代美術館では、引き続き将来開催予定の「パンリアル美術協会展」出品候

補作品の日本画の修復作業、及び藤田嗣治作「横たわる裸婦」への低反射ガラスの装着、寄贈を受けた須田国太郎洋画作品の修復・額装を行う。

- ⑤ 国立西洋美術館では、前年度に引き続き彫刻作品を中心に保存修復処置を行う。
 - ⑥ 国立国際美術館では、洋画（ヴォルス）、版画作品（日和崎尊夫、マルセル・ブロータース、川俣正）と彫刻作品（石原友明）などの保存修復処置を行う。
- (4) 国内外の博物館・美術館、大学等と連携し、所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究を実施し、その成果を業務に反映させる。
- ① 東京国立近代美術館工芸館では、山口県立萩美術館・浦上記念館や大阪市立近代美術館建設準備室、イギリスのイーストアングリア大学等と、陶芸並びに近代デザイン作品の調査を実施し、収集・保管と展示に関する研究を行う。
 - ② フィルムセンターでは、映画フィルムの登録・長期保管・保存、アナログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調査研究（F I A F 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等との共同研究）を行う。
 - ③ 京都国立近代美術館では、客員研究員の指導のもとに、写真作品の管理保管システム再編成を調査研究し、安全で迅速な利用態勢を整える。
 - ④ 国立国際美術館では、作品修復に詳しい者を学芸課研究補佐員として採用し、修復・保管に関する体制の構築に向けて検討開始する。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

- (1) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって広く発信する。

なお、これまで各館において個別に行っている年報について本部において編集・発行する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

- ① 研究紀要、展覧会や企画上映に伴う図録、「現代の眼」、「N F C ニューズレター」などの刊行物を発行する。
- ② 小・中学生向け解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。

<工芸館>

- ① 「ルーシー・リー展」（平成22年度国立新美術館で開催予定）に関連して、イギリスの研究者、工芸家との研究交流を行い、東洋陶磁学会研究会等で発表する。
- ② 開館30周年記念誌をデジタル媒体で発行することを検討する。

<フィルムセンター>

- ① 「第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議」の記録集を刊行する。

(京都国立近代美術館)

- ① 展覧会に伴う図録、美術館ニュース「視る」を発行する。
- ② 京都国立近代美術館研究誌「CROSS SECTIONS」を発行する。
- ③ コレクションギャラリーでの小企画に対応した研究論文をホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

- ① 研究紀要、展覧会に伴う図録、「国立西洋美術館ニュース」を発行する。
- ② 展覧会に伴う小・中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

- ① 展覧会に伴う図録及び「美術館ニュース」を発行する。
- ② 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を発行する。

(国立新美術館)

- ① 展覧会に伴う図録及び「国立新美術館ニュース」を発行する。
- ② 中学生以上を対象とした鑑賞ガイドを発行する。

(2)-1 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

- ① 東京国立近代美術館本館では、「権鎮圭展」にあわせ、武蔵野美術大学と協同で国際シンポジウムを開催する。
- ② 東京国立近代美術館工芸館では、「現代工芸への視点」展にあわせ、出品作家を招き、シンポジウムを開催する。
- ③ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)を記念して講演会等を開催する。
- ④ 京都国立近代美術館では、「京都学展」にあわせ、美術、工芸、建築の幅広い視点から都市としての近代京都を研究するシンポジウムを開催する。
- ⑤ 国立西洋美術館では、ポール・ゲティ美術館との共催により、国際シンポジウム「美術館・博物館コレクションの地震対策」を開催する。
- ⑥ 国立国際美術館では、「現代日本の絵画」展にあわせ、現代日本絵画に関するシンポジウムを開催する。
- ⑦ 国立新美術館では、「野村仁展」にあわせ、記念講演会等を開催するとともに、美術資料をテーマにしたレクチャー、セミナー等を開催する。

(2)-2 東京国立近代美術館本館では、本年度に開催する「権鎮圭展」について、同展の巡回先である韓国国立現代美術館と共同開催の在り方等について具体的に協議を進める。また、東京国立近代美術館工芸館では、我が国の工芸美術を紹介するための海外展の開催の可能性について関係機関と協議する。

(3) 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、国際フィルム・アーカイブ連盟加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルム等の保存・修復活動を行う。

(4) 所蔵作品について、その保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

- ① 東京国立近代美術館では、作品の状態や同館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積極的に対応する。三重県立美術館の「元永定正展」、損保ジャパン東郷青児美術館の「没後80年 岸田劉生 - 肖像画をこえて」展、川崎市岡本太郎美術館の「開館10周年企画 岡本太郎の絵画」展などに貸与予定である。
- ② 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、最新の保存・復元の成果を広く紹介する

ために、所蔵日本映画を中心にパッケージ化し、地方及び海外の同種機関を中心に共催等による上映会の開催を行う。

- ③ 京都国立近代美術館では、砺波市立美術館及び喜多方市美術館へ所蔵作品約140点を貸与し「ユージン・スミス写真展」を開催する。静岡市のフェルケール博物館に池田満寿夫版画作品約180点を貸与し、「池田満寿夫版画展」を開催する。
- ④ 国立国際美術館では、作品の状態や同館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積極的に対応する。名古屋市美術館の「だまし絵展」、滋賀県立近代美術館の「開館25周年記念展」、尼崎市総合文化センターの「白髪一雄展」などに貸与予定である。

(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

- ① 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。
- ② 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子どもたちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。
あわせて、法人ホームページでの実施概要の掲載、記録集の発行、配布を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：平成21年8月3日～5日

会場：東京国立近代美術館、国立新美術館

- ③ 上記②の研修について教員免許更新講習として実施する。

(6) インターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

- ① 各館においてインターンシップ制度を実施する。
- ② 東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンターにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。
- ③ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して西洋美術に関する教育を行う。

(7) 公私立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の向上を図る。

(8)-1 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として次のとおり実施する。

- ① 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ② 映画関係団体や大学等との連携協力を推進するための会議等を年間2～3回程度主宰する。
- ③ 映画の保存事業等について助言を求めるとともに、当該事業に関連した人材育成の在り方について検討を進めるため、識者や関係者を集め会議を開催する。
- ④ 文化庁が実施する映画関連の事業に、施設の提供等で協力する。
- ⑤ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力する。
- ⑥ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき、

資源及び情報等を活用し、文化事業を連携・協力して行う。

- ⑦ 第65回国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員が出席し、シンポジウム等で発表を行う。

- (8)-2 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内における独立した一館となることを含むさまざまな独立の可能性を探るべく、その機能拡充について、文化庁が推進する「メディア芸術の国際的な拠点の整備に関する検討会」の進展状況を踏まえつつ、より深い検討を行う。

- 4 運営委員会及び外部評価委員会の指摘等を館長会議等において検討し、法人運営・事業等に反映させる。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。
 - ① 各館において個別に行っている年報について本部において編集・発行する。
 - ② 国立美術館5館の情報システムネットワークの一元化を基盤として、TV会議システム、グループウェアなどの活用による効率化を進める。
 - ③ 東京国立近代美術館において、エネルギー効率の高い空調設備等への更新工事を、前年度に引き続き実施する。
 - ④ 東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理・運営業務（展示事業の企画等を除く）について民間競争入札による民間委託を導入し、業務運営の効率化を図る。
 - ⑤ 施設の有効利用のため、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図る。
 - ⑥ 対象業務の拡大や契約の包括化により、競争入札を推進する。
- 2 外部の有識者による評価及び職員の意識改善
 - ① 運営委員会及び外部評価委員会による業務の実績に関する評価を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
 - ② 会計・人事等の研修を通じて職員の意識改革と資質の向上を図り、あわせて組織の活性化を図る。
 - ③ 人事評価制度の見直しについて、国及び他の独立行政法人の制度を分析のうえ、制度設計の検討を行う。
- 3 国立美術館が管理する情報の安全性の向上のため、コンピュータウイルスに関連する情報を職員に周知し、情報セキュリティへの意識向上に努める。
- 4 人件費については、前年度に比べ概ね1%削減するとともに、①組織の見直し、②人員の削減等に努める。

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

- 1 外部資金の活用、自己収入の増大に努める。
- 2 予算（年度計画の予算）
別紙のとおり。
- 3 収支計画
別紙のとおり。
- 4 資金計画
別紙のとおり。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

職員の研修計画

- ① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。
 - ア 新規採用者・転任者職員研修
 - イ 接遇研修
- ② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

2 施設・設備に関する計画

施設・設備の整備を計画的に推進する。

2 予算(年度計画の予算)

平成21年度予算

(単位:百万円)

分	金 額
収 入	
運営費交付金	5,773
展示事業等収入	985
施設整備費補助金	9,939
文化芸術情報電子化推進費補助金	1,050
計	17,747
支 出	
運営事業費	6,758
管理部門経費	1,805
うち人件費	340
うち一般管理費	1,465
事業部門経費	4,953
うち人件費	816
うち展示事業費	3,077
うち調査研究事業費	158
うち教育普及事業費	902
施設整備費	9,939
文化芸術情報電子化推進費	1,050
計	17,747

3 収支計画

平成21年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,946
經常経費	5,946
管理部門経費	1,861
うち人件費	340
うち一般管理費	1,521
事業部門経費	3,949
うち人件費	816
うち展示事業費	2,092
うち調査研究事業費	155
うち教育普及事業費	886
減価償却費	136
収益の部	5,946
運営費交付金収益	4,722
展示事業等の収入	985
資産見返運営費交付金戻入	112
資産見返物品受贈額戻入	24
施設費収益	103

4 資金計画

平成21年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	17,747
業務活動による支出	6,756
投資活動による支出	10,991
資金収入	17,747
業務活動による収入	7,808
運営費交付金による収入	5,773
展示事業等による収入	985
文化芸術情報電子化推進費補助金による収入	1,050
投資活動による収入	9,939
施設整備費補助金による収入	9,939